「確かな学力」の育成を目指した技術・家庭科カリキュラムの探求
～「課題発見能力」・「問題解決能力」の育成をめざしたカリキュラムの探求～

技術・家庭科　中村正寛
鶴見昭子

1．テーマ設定にあたって

技術・家庭科の目標は「生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して，生活と技術とのかかわりについて理解を深め，進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。」と示されている。自分の生活を主体的に営むことができる個の育成を最終的なねらいとしている。

一昨年度より自分らしさを大切にして，生活を主体的に営もうとする力を『生活に生きてはたらく力』と捉えて研究を進めてきた。昨年度は学習時における見取り評価を中心にして，一人ひとりの学習によりそう学習指導を進めてきた。これらの研究から見えてきた授業改善を実践として記述したい。

カリキュラムを考えるとき，次の２つの視点から考えてみる必要がある。１つには『生活に生きてはたらく力』を身に付けさせる有効な題材や教材の探求である。いま一つは学習の適時性や連続性があげられる。一般的に『発達段階と学習指導』，『発達段階に即した学習指導』といったことばで表されることが多い。発達段階と学習効果は題材や教材によることも大きく，従って２分して検討すべきものではないことは言うまでもなく，セットとして考えていく必要がある。

本校の生徒は知識欲が旺盛で，理解力・思考力・判断力には一定の能力が認められる。個人差はあるが表現力に富んだ生徒も多い。一方で日々の生活場面を直視することや，その蓄積からの生活感の欠落もしくは不足している生徒も見られる。自分の手足や体全体を駆使して，生活を創りだしていこうとする意欲の欠如に繋がっているともいえる。

また，他との関わりにおける自己の伸長や確立，他者への配慮，なかんずく共生といった人間関係の構築への関心に乏しい生徒も少なからずいる。そのことが現状の生活にとって，さして不便や不満を感じさせていないようである。変化が激しく，状況判断や意思決定が余儀なくされるこれからの生活場面で，生徒が主体的に生活を営もうとする能力の育成には，現状に潜む問題点に気づかせることが必要である。さらに問題点の本質を掘り下げていく学習活動の中で課題解決の糸口を見いだす過程そのものが有効な学習であると考えている。

2．家庭科（家庭分野）での試み

ここ数年学校現場では子どもの不適応などが課題になっている。その解決方法を探る中で子どもの成長・発達を捉えなおした教育体系のありかたが問い直されている。身体の成長・発育と精神的な発達のずれや，高度情報化を含めて子ども達を取り巻く生活環境の急変で，子ども達のおかれている現状は新たな学習体系を求めているように思われる。

日本家庭科教育学会では，1980年代に「児童･生徒の発達と家庭科教育」の研究課題のもとに実態調査･教育実践を全国的に行い，文部省に提言している。続いて90年代後半には「家庭科の21世紀プラン――小･中･高等学校家庭科教育の新構想研究」を出版している。これらをもとに「子どもの実態と家庭科カリキュラム研究会」を組織し，検討をかさねている。具体的には①大量の全国調査では把握しにくかった子どもの実態をとらえること，②新しい教育課題を明らかにすることをねらいとしている。研究成果も徐々に報告され，一部は文部科学省等へ提言されている。

家庭科では従来から子どもの主体性を重視した学習をすすめてきた。総合的な学習の導入はその方向をさらに進めて来た。子どもの本来持っている能力を引き出し，深めていくためには，子どもの学びや育ちに注目した題材の開発と学習の適時性が検討・検証されなければならない。

3．「B家族と家庭生活」の学習実践から

はじめにの中ででも述べたように「B家族と家庭生活」については家庭科がめざす学習の本質的な領域であり，この学習はこれからの学校教育の中で，その必要性は増すものと考えている。にもかかわらず，その内容や指導法については「A生活の自立と衣食住」ほどには確立されていない。そこで今年度は次のような学習計画で進めている。年度半ばであり，未だ実践，検証されていない部分がある。が，昨年度の3年生対象の授業実践とその反省点をふまえた継続実践の報告である。

(1) 指導計画

学　習　題　材	学　習　内　容	時数
※B (3) わたしと家族・家庭と地域	1．わたしと家庭生活 2．家庭生活と地域	7 ∵(2)
※B (2) 子どもの成長	1．幼児の成長・発達 2．幼児と遊び 3．子どもと家族 4．子どもと周囲の人びと	15
※B (6) 幼児との交流 **選択　家庭科**	テーマ「手作りにこだわって幼児との交流を深めよう」 1．幼児の発達を促すものを創ろう 2．幼児との交流会を企画しよう 3．交流体験記をつくろう	26

※　B(2)，B(3)，B(6) は学習指導要領中の分類記号番号である。
∵(2) は3年次での授業時数

(2) 研究を進めるポイント

文部科学省は学習指導要領の運用の中で技術・家庭科の学習においてA・Bそれぞれの(1)～(6)の中で(1)～(4)を全ての生徒に履修させ(5)，(6)の中から選択履修することとしている。また履修学年なども柔軟に捉えて3年間の学習として弾力的な進め方が容認されている。とはいえ，学習時間そのものが適切か，というとはなはだ疑問である。学習を深めるための時間保障はされていないのが現実である。

以上の点をふまえて次に示すようなことに留意して進めている。

① a 単元テストを活用した生活実感や題材学習への意識調査
　 b 単元テストを活用した記述問題
② 数値や新出用語等の読み解きを深める学習
③ 体験や実践活動，こだわりを大切にする学習

① 単元テストの活用

a 単元テストを活用した生活実感や題材学習への意識調査

本校ではこれまでの定期テストをとりやめ，年間数回の単元テストを行っている。

生活実感や新たな題材への意識づけにおいて，この学習では生徒の本音をださせることが大切である。一斉にしかも教科の学習時間を割かないような方法として，単元テストにおいて　ア．簡単な設問，イ．意識調査を行っている。(学習の成果を見る事後テストとは一線を画し，生徒にもこの措置については説明しておく）学年進行とともに意識の違いが，明瞭に浮かび上がってくる。また生徒のこれまでの育ちや学びのあり方の大要を把握することが可能である。

下の表は本年７月の単元テスト中の記述の一部である。

進路や進学に関わる本音や不安，家族からの期待に対する不満は，３年生から多く出されている。

「家族や家庭生活」について　ⅰ今，疑問におもっていること　ⅱ不満だなーとか納得できないよと思うこと　ⅲ学習したいこと等を書いてください。(複数記入可)

ⅰ	ⅱ	ⅲ
・親にとって子どもはどういう存在か ・何で人間って家庭をもって一つ屋根の下でくらすの？ ・なぜ共働きが増え，子どもと関わる時間が減っているのか ・家族と一緒にいることってそんなに大切なのか？ ・町内会の活動って？ ・町内会の子ども会は必要なのか ・なぜ，最近幼児虐待が増えているのか ・なぜ赤ちゃんはかわいがられるのか ・なぜ，家庭を持たねばならないのか ・なぜ親は自分を尽くして子どもを大切に育てるのか ・女性が多いのに子どもが少ないのはなぜか	・大人は自分が昔なれなかった職を子どもにやらせようとするのか ・いい高校，いい大学へ行けという親が多いが，それは自分が自慢したいからではないか？ ・アメリカでは，年に関係なく，お母さんと，気軽に友達のように相談したり，ハグしたりするのに，どうして気軽にと言うのができないのだろう ・母はすぐに私に手伝ってというが，兄達にはめったに言わない ・何で能力の違うよその子，兄弟と比較するのか？ ・最近，親が子のしつけを十分していないことが多いのではないか ・自分のしたい勉強をさせてくれない	・小さな子ども達で最近はやっている遊びを知り，自分達の頃との比較をしたい ・アメリカと日本の幼児との関わり方や接し方を調べてみたい。それが幼児虐待とかにどう影響しているか調べてみたい ・自分の家庭では特に問題がないが，一般的に中学生がいる家庭で問題になっていることにはどんなことがあるのか知りたい ・町内会の行事はどんな目的で行われるのか調べてみたい ・もし，近所づきあいが悪く，自分だけ孤立していたらどのような状況になるのか ・子どもの性格は家庭による影響と，生まれたときから決まっていることのどちらが強いか ・乳児は育った環境が違うとどのようになるか

b 単元テストを活用した記述問題

記述方式の設問は生徒の本音があらわれること。確かな学力として定着の度合いを見ることがたやすいことがあげられる。03年12月実施の記述試験を参考資料として掲載する。《資料１》

② 数値や新出用語等の読み解きを深める学習

情報化社会は量的にも頻度の上でも大量の情報を出している。家族や家庭生活はこれらの影響を多大に受けている。新しい用語（新たな事象や，頻発する事象に対する用語でカタカナ文字や省略したアルファベット文字で報じられることがある）や，時には統計的に出されてくる数値に敏感な反応を示す生徒が多い。新しい用語や数値はその変化にたいする一方的なコメントを伴って報じられることもある。また，その事象や数値が過大化して報じられることもある。一方で従来家庭生活における問題点は家庭内で解決するのが妥当である。個人的な問題であって，表に出すことは恥ずかしいことであるといった考えが根深く，その結果，うやむやにされてきたことも否めない。

家族や家庭生活にかかわる学習は問題が抱える原因や理由は複雑である。言葉の意味することや報道は慎重にしかも多面的に取り上げて考えさせる必要がある。

切り口として数値をとりあげ，それが意味することの読み解きの中で何が問題であるかが言える生徒，問題を解決しようと探り出し，働きかける生徒の育成を試みた。子育ての問題や家族の問題を中学生自身の問題として捉えさせることはかなり難しい。無味乾燥な数値から探り出させることは案外有効な手段であることが認められた。

昨年度は少子化問題を子育てのあり方の視点で取り上げ，「ストップ･ザ少子化？！」を論議の中心にした学習を展開した。（03年11月22日研究発表会の公開授業）ここでは1.34（02年度の日本における合計特殊出生率）2.08（人口維持の合計特殊出生率）0.33パーセント（男性の育児休業取得率）を読み解き，問題点を見つけ出すこと，その解決の糸口をみいだすことをねらいとした。学習後の単元テストにおいて次のような問題をだした。《資料１》

公開授業の際に，大学教官から次のような指摘をいただいた。「少子化のプラス面やマイナス面を十分に論議させる中で生徒の中からストップ・ザ・少子化が導き出されたのならよいが教師や一部の人からの押し付けと考えられる課題設定ではないか。」

確かに多様な資料の収集を生徒たちに課せていながら，それらの読みからの生徒自身の考えを検討させることをあまりしない時点で，教師の望む方向へと急いだきらいがある。参考資料に昨年度の学習時のワークシートを掲載する。《資料２》《資料３》

今年はこの反省を活かしたいこと，03年の合計特殊出生率1.29公表の時期に関しての問題点が大きく取り上げられたことを考慮した。本来生徒に多様な視点からの気づきを期待したく，特に自分育てや子育ての視点からの気づきを期待したい。にもかかわらず，年金問題等の一方的な論議に流される懸念があった。また，『発達』をキーワードに学習を進めていた時期でもあり，学習全体の位置づけとしても不適当であった。冷静に考えられる時期に教材として深くとりあげたい。

７月に入って実施した単元テストで次に示すような設問で事前調査を実施した。

> 1.29（03年合計特殊出生率1.29）から考えられる事柄を次の視点から書きなさい。
> ・現在（中学３年生）考えられる＋面，－面
> ・15年後にこの数値を提示されたとして考えられる＋面，－面　を自分の言葉で書きなさい

記述結果を拾い挙げた段階である。子どもと家庭，子どもと周囲の人々の学習展開においてどのように活用し，生徒一人ひとりの考えを深めさせていくかの詳細は検討中である。が，「国や政府から『「もっと子どもを産め」って命令がでるかもしれない』といった鋭い意見も見られる。一方で，うるさい泣き

声が減るとか，兄弟喧嘩をしなくてよいといった自分育てを含めた子ども育てを短絡的に捉えている姿も出ている。教材としての活用には生徒一人ひとりの考えをより大切にしなければならないと改めて考えさせられている。

	中３	15年後にこの数値を見ると想定して
＋面	・人口増の抑制 ・うるさい泣き声が減る ・子ども１人が多く，親の負担が小さい ・食糧事情がよい ・兄弟喧嘩をしなくてよい ・働く親の収入で豊かな生活ができる ・定年退職する年齢が引き上げられる ・男女平等がみとめられつつある	・自分の生活も安定してできる ・親の負担が小さく，親の愛情を一身に受けることができる ・自分のこどもが入試をするとき合格の確立が高くなる ・子育てに苦労が少ない ・仕事に専念でき，収入を増すことができる ・子どもが少なくなり，少年犯罪がなくなる ・少人数の学校や塾が増える ・老人ホームがたくさんできてうれしい ・老いた人も職を持つことができる ・家庭を持とうと言う意志が高まると思う
－面	・保育所などの順番待ちが楽 ・学校がつぶれたり定員割れ ・年金の未加入者が増える ・小学校などが閉鎖される ・赤ちゃんの笑顔を見る機会が少なくなる ・赤ちゃんと接する機会が減る ・地域の友達が少なく，かかわりが少ない ・子育ての集中力大	・子どもにとって兄弟は必要だ ・自分を支えてくれる若い人が少なくて不安 ・ベビー用品が売れなくなる ・労働力が減る ・将来の年金が減る ・子ども達の負担が大きい ・人口維持できない ・将来の私たちを介護する人が減る ・自分の子孫がいなくなり，自分の家系がとだえる可能性がある ・保育園とかも減るし，働くのに苦労する人がいるかも ・学校や小児科が減っていく ・後継ぎがいなく，農家が減る ・消費税があがる ・国や政府から「もっと子どもを産め」って命令がでるかもしれない

③　体験や実践活動を大切にした学習

３年生の家庭科の学習時間は少なく，学習計画で示すように本年度の選択教科の学習時間は，前後期制を取り入れてはいるが26時間確保できること。２時間続きも設定されており，時間がかかる制作活動や製作学習として進めることが可能であること。また，ややもすると家庭分野の学習がA(1)～A(6)とB(1)～B(6)とに分断されやすいが，関連を意識した学習展開が可能である。選択家庭科の方針や流れの大要は次の表に示す通りである。

3年選択教科のオリエンテーション（学習内容）

テーマ「手作りにこだわって幼児との交流を深めよう。」
幼児の発達を促すものを創ろう。
・幼児の発達を促す遊具を創ろう。
・幼児の生活（遊び）空間を工夫してみよう。
・幼児の食事について深く探ろう。

選択家庭科のねらい

・手や体を駆使しての体験的学習を中心とする
・五感の活用⇒季節や自然から多くを学ぼう
・課題意識を常に持とう（持ってくるものや準備）
・資源（残り布などの再利用，再使用）の有効活用をしよう

授業の約束

・時間のけじめをつける。⇒始業・終業の挨拶　　号令係
　提出期限の厳守，　掃除の取りかかりに遅れない
・学習活動の主体であることを意識して，積極的に取り組む
　　準備，活動（創意工夫と自己流は時には区別の必要あり）
・評価は必修の一斉授業と同様に行われる

前期の学習の流れ

1．よもぎ団子づくり	2時間
2．モプチャンの服づくり	17
・裁断・しるしづけ　・構成	
・ミシン縫い基礎　・縫合	
・しあげ	
3．梅シロップ作り	1
4．園児との交流会	6
・人形劇づくり　・案内板づくり	
・ゲームづくり　・交流会	

昨年度の3年選択家庭科の学習や3年家庭科における制作学習（20人の少人数クラス），同一校地内の附属幼稚園の園児との交流会から見えてきたことをもとに，制作や製作学習に取り組ませた。

指導の際には次の点を特に留意した。

① 制作や製作学習には十分な時間を確保する
② 制作や製作学習には十分な空間を確保する
③ 制作や製作学習の評価は複数（異年齢を含める）で行う

20人の少人数クラス（技術での20人クラス）での折り紙制作は落ち着いた雰囲気で童心に返って進められた。折り紙をしながらふり返り学習が自然にでき，生徒達が求めている学習のあり方を再認識した場面であった。作業スペースも広く取れたことも効果的であった。前期の選択家庭科は男子３人 女子８人 合計11人履修である。

制作や製作品の評価は園児との交流会の場で、素直で素朴な発言や，園児とのゲームや遊びへの関わりでじかに評価され，交流後の記録の中で反省点として記述している。制作途上での教師の働きかけとは違って（量的にも質的にも）インパクトの高いものになったようである。園児やその保護者の方の積極的な遊びへの参加は生徒にとっての最大の評価であった。中には普段見られない自分の良さを本人はもとより，他の友人，教師から認められた者もあり，後期もこの学習をさらに深めていきたい。《資料４》

４．今後のすすめ方

テーマ設定にあたっての中でも述べたように，学習者の不適応，教育現場での混乱等解決されなければならない課題が多い。このことは学習の連続性の問題にも及ぶ広く，深い問題でもある。生涯にわたり学習し続ける個の育成は学校教育がその基礎をつくると考えたとき，責任の大きさを改めて痛感する。この研究は初年度でもあり，授業実践さえ途上である。今後は授業実践を重ねて一歩一歩検討を進めていきたい。

《資料１》

技術・家庭科（家庭分野）単元テスト　　2004.12

Ⅰ参考資料『スウェーデンと日本における出産・育児環境』（1999年教育雑誌掲載）の前半部分を読んで現在及び将来を見据えた君の意見を次の条件のもとで書きなさい。

条件　・①数値１．３２　②数値０．３３　を入れた意見文とすること
　　・それぞれの意見文にタイトルをつけること（意見文を書いた後につけやすい）

①	タイトル
意見文	

②	タイトル
意見文	

《資料２》

子どもと家族　　組　　番

1，　幼児ではなく子どもとしたわけは？

2，１を頭において子ども　家族のイメージマップを書こう。

子ども

家族

3，子どもと家族のかかわりについてまとめてみよう。

子どもと家族のかかわり	特徴や問題点，その背景等気がついたこと

4，子どもと家族をめぐる最近の問題をあげてみよう。資料などの出どころを明確にしよう。

問題	誰の何に対する問題なのか。整理してみよう。

5，１のイメージマップに加えることは？（　　で）　関連の線引きは？

6，本日の授業の取り組み

課題意識をもって取り組んだ　A　B　C　D　とりくめなかった

理由

《資料３》

子育てと少子（化）社会　　組　　番

1，少子社会　　イメージマップを書いてみよう。

少子社会

Q，数値あてクイズ……

ストップ・ザ少子化！？　グループ　発表

2，子育ての問題と少子化

子育て問題と少子化	背景や原因（どんなことが何に対して問題なのか）	確認，資料，記事
家族（家庭）を中心に解決法を探る。		
（家庭外の支援）		

3，グループ討議から見えてきた解決策を発表しよう。（準備）

テーマ…… （説得力のあるテーマ名に）
説得力のある説明　その１　　**数値**を入れる
説得力ある説明　その２
内容

5，本時の学習から　　課題意識を持って学習できましたか

課題意識をもって取り組んだ　A　　B　　C　　とりくめなかった　D

理由

《資料４》

選択家庭科　　「園児との交流会」　　04.9.16

２組　　番

印象に残ったこと

・人形劇 … 観ている子が、とても真剣でした。かんたんな話の劇でも、しっかりと観ていたのが印象的でした。

・ゲーム … 当たったらシールがもらえるということで、とても一生懸命でした。でも、シールのことだけじゃなくて、「自分はわかるんだよ」という自己主張のように思えました。なかなか「手をあげて、あてられてから言う」というのができない子が多くて、子供らしい一面もあれば、友達に自分がもらったシールについて話したり、意外にしっかりした面も見ることができました。

反省点

人形劇では、子供達の方から「短～い」という声があり、内容がちょっとうすかったかなぁと思います。ゲームでは、その場でシールのことを決めたので、大変でした。男の子向けのシールを用意していなかったので、男の子があまり来ませんでした。

選択家庭科全般の反省

最後の交流会で、とても達成感がありました。準備や、ぬいぐるみの服をつくったりするのは大変だったけど、できてよかったです。調理実習をもう少しやりたかったです。